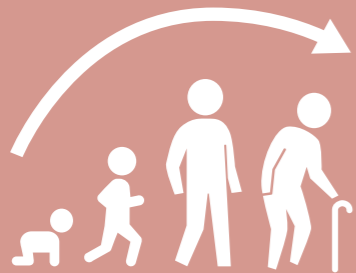


社会にインパクトある研究

E. しなやかで心豊かな未来創造



E2 長寿社会



少子高齢社会から 心豊かな長寿社会へ

プロジェクト理念



日本社会は、戦後に所得増加と長寿化を通じて生活水準の向上を達成した。しかし、近年は、少子化の進行、若年労働力の不足、高齢者福祉等の持続可能性不安、地域社会消滅の危機、世代間・世代内格差拡大等の深刻な状況に直面している。しかも政府財政は慢性的な不均衡状態にある。こうしたなか、「**少子高齢社会**」に伴う問題点を克服して、**経済・健康水準の向上を人生の充実感**につなげ、「**心豊かな長寿社会**」を実現する社会システムの確立が喫緊の課題となっている。

「心豊かな長寿社会」実現のためには、①一方で、少子高齢化の更なる深刻化を防止するため、**出産・育児と就労および親の介護とを両立しうるライフ・スタイルの実現**が必要だが、②他方で、**少子高齢化への適応**も重要であり、シングル・ライフや子どもを持たない人生を選択しても、少子・高齢化による自らの住む地域社会の存亡の危機を克服し、老後の社会保障の不安にさらされない社会を作る必要がある。③さらに、幸福を求めて個人が選択した**多様なライフ・スタイル（職業、地域、家族など）**を地域の文化と結び付けて生涯の心の豊かさにつなげることが重要になる。

東北大学はこの問題に高齢経済社会研究センター^{*1}を中心に取り組み、「心豊かな長寿社会」実現に向けて上記①②③の課題解決に資すべく、資源の望ましい配分および希少資源の効率的活用という観点から、次の研究と政策提言を行う。

- (1) 「**社会福祉と家族の役割**」の分野では、健康で子どもを産み育てる人生を選択可能な社会を実現するため、医療介護サービス効率化や子育て・就業両立のための制度を研究し、上記①③に資する政策提言を行う。

プロジェクト理念



- (2) 「**地域の暮らしとコミュニティの役割**」の分野では、人々がシングル・ライフや子供のいない人生、また地方での居住を選択しても、生涯安心できる社会環境を実現するため、一極集中社会の緩和や格差社会の解消の研究、財政制度と社会保障改革を研究し、上記②③の課題に資する方策を社会に発信する。
- (3) 「**世代間公平**」の分野では、経済成長と高い出生率、高い幸福度を両立した諸外国の事例も踏まえ、世代（時代）に関わりなく、個人が充実した職業生活・家族関係・健康等を享受し、生涯にわたる心の豊かさを実現しうよう、上記①②③に資する、社会実装可能な技術・制度・政策提言を行う。

東北地方は日本で最も高齢化が進み、国による地域別の調査でも暮らしの満足度が低く、さらに東日本大震災を経験した。本プロジェクトでは、その東北地方を基盤に文化的・人間的な心の豊かさを明らかにし、「心の豊かさ」増進の手がかりを探求し、日本社会全体のみならず、広く国際的にも発信する。さらに、財政・福祉・医療などの個別の問題解決に留まらず、それらを有機的に連携させることで、地域活性、格差解消、介護改善などに好循環をもたらし、**個人と社会の心の豊かさ**とが**一致して成長して持続可能な「心豊かな長寿社会」**の形成に貢献する。

※1 高齢経済社会研究センターは、高齢経済社会及びそれに対応した公共政策について先端的な研究を行い、高齢化の進行に伴う諸問題に適用して問題解決に資するとともに、その成果を広く社会貢献・教育等にも活用することを目的として、1997年に設置された福祉経済設計講座を母体に2005年に経済学研究科内に設立された。同センターは、①加齢経済研究セクション、②高齢社会公共政策研究セクション、③医療経済研究セクション、④福祉経済研究セクション、⑤産学共同研究プラットフォーム、⑥統計分析セクションの6つの部門を置き、高齢経済社会及びその公共政策に関する研究、この分野での共同研究・受託研究及び寄付講座の受入れ、その他センターの目的達成のために必要な事業を実施している。

プロジェクト概要



1 社会的課題

近年、少子化の進行、若年労働力の不足、高齢者福祉の持続可能性への不安、地域社会消滅の危機、世代間・世代内格差の拡大等の深刻な状況に直面している。このため、**少子高齢化の深刻化を防止**すると同時に、**少子高齢化に適応**し、さらに個人の多様なライフスタイルを地域の文化と結びつけて**心の豊かさにつなげる**ことが重要である。

2 解決の方法

本プロジェクトでは、**経済学の「資源配分の最適化」**の方法を応用し、また、**高齢者だけでなくそれを支える若年・将来世代や家族、地域社会の持続性に注目**することで、**経済・健康水準の向上を人生の充実感につなげて「心豊かな長寿社会」を実現すること**を目指す。具体的には、(1) 社会福祉と家族の役割、(2) 地域の暮らしとコミュニティの役割、(3) 世代間公平と持続性の3つの切り口で国際比較やシミュレーションを行い、医療介護サービス効率化や子育て、就業両立のための制度を研究し、政策提言として発信する。

3 東北大学の強み

東北地域は日本のなかでも大きく高齢化進む地域であり、実証フィールドとして重要であり、かつ災害復興の経験を活かした研究成果を世界に発信することができる。また、東北大学には総合大学ならではのリソースとネットワークがあり、**高齢経済社会研究センター**による高齢社会に対する経済学的な研究・教育の蓄積もある。

4 プロジェクトの効果

本プロジェクトでは**個人と社会の心の豊かさ**が一致して成長し、**持続可能な「心豊かな長寿社会」**を世界に先駆けて実現する。効果を日々の生活から社会全体に拡大し、東アジアを始めたとした全世界に知見を提供することで国際的にも貢献する。

5 組織体制

経済学研究科の**高齢経済社会研究センター**が中核となり、「社会にインパクトある研究部会」を構成し、部局を超えた学内連携体制を築くと同時に、政府機関や企業などの学外とも連携して研究プロジェクトを推進する。

少子高齢社会の日本

先進国の出生率 (2015年)

国名	合計特殊出生率
フランス	1.92
スウェーデン	1.85
アメリカ	1.84
イギリス	1.80
ドイツ	1.50
日本	1.45
イタリア	1.35

参照 | 内閣府『平成29年版少子化社会対策白書』2017年

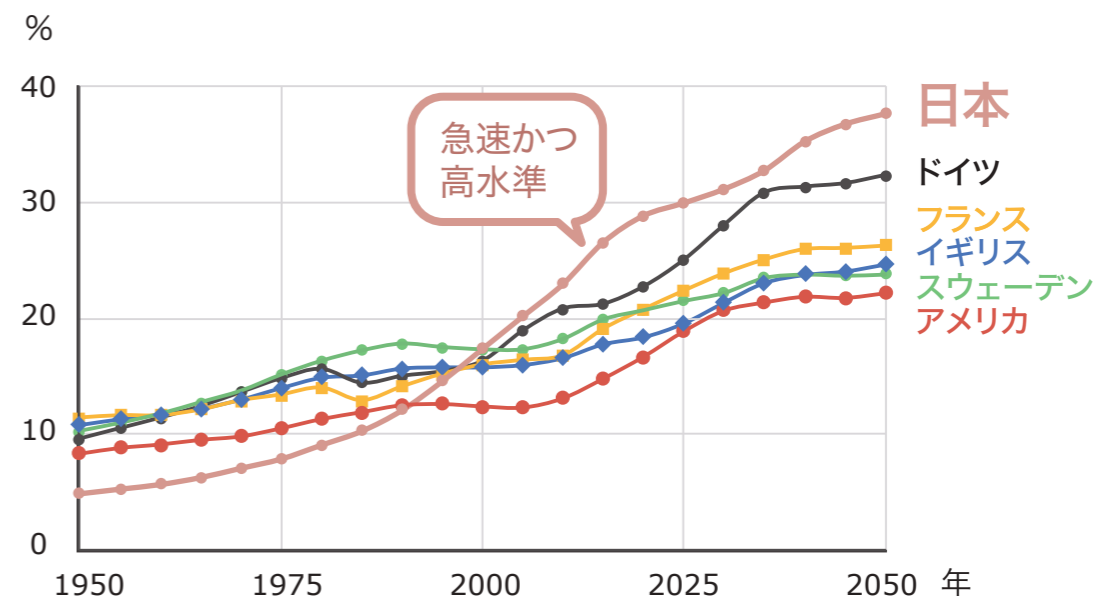
少子化の進行

日本は先進国中でも低水準の出生率で、少子化により労働力不足が深刻化している

人口減少により全国市町村で持続可能性のリスクが生じている

高齢化の国際比較 (2015年)

高齢化率：総人口に占める65歳以上の人の割合



参照 | 内閣府『平成29年版高齢社会白書』2017年

高齢化の進行

日本は先進国中でも特に高齢化が進行している。これにより社会保障費が増加し、政府債務の累積が先進国中で最悪に

要介護者数が急増し、介護負担が拡大している

少子高齢化に伴う社会的問題が深刻化

日本の少子高齢社会がもたらす問題

少子高齢化がもたらす様々な不安



- 次世代の急速な減少と地域や社会活動の消滅
- 政府債務の増加と国家財政・日本経済の大混乱
- 若年層への著しい負担増加や高齢者福祉の劇的な切り下げ
- 高齢者福祉・医療を中心とした社会保障財政の破綻
- 若年層や女性は社会で安定して自己の能力を発揮できるのか
- 少子高齢社会に対応するための競争激化により日本の調和の利点が失われないか 等

幸福度ランキング (2017年)

順位	国
1	ノルウェー
2	デンマーク
3	アイスランド
~~~~~	
7	カナダ
14	アメリカ
16	ドイツ
19	イギリス
31	フランス
48	イタリア
<b>51</b>	<b>日本</b>

参照 | Helliwell, J.ほか (編) 『World Happiness Report 2017』  
国連SDSN, 2017年

## 人々が感じる不安の増大

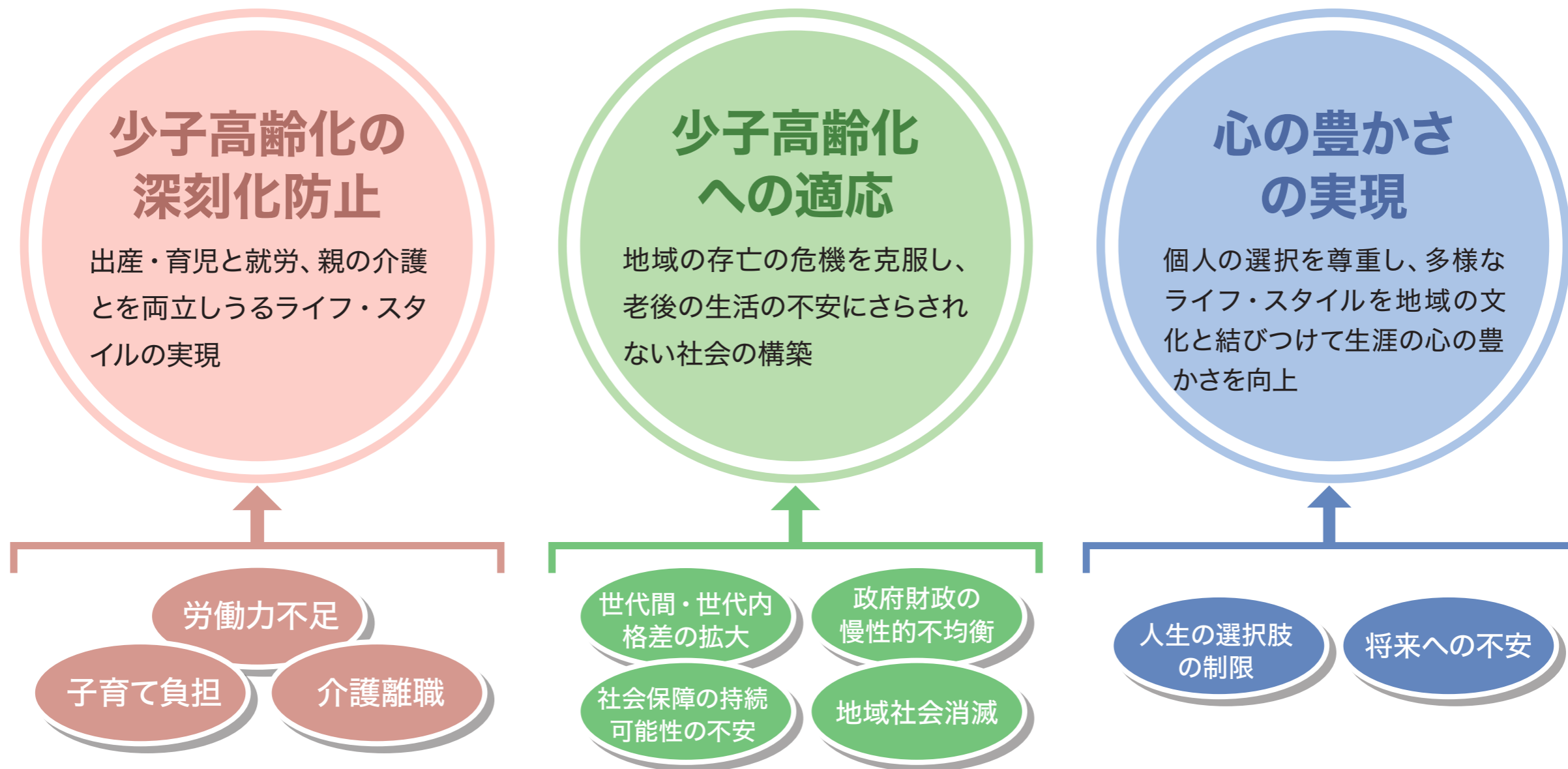
現在の日本の少子高齢社会は、個々人が望むライフスタイルを実現できる環境となっておらず、人々に将来への不安をもたらしている

## 低水準の幸福度

国連が発行する、各国の国民へのアンケートを元にした幸福度世界ランキングでは、日本は51位と先進7カ国で最低となっている

人々の心の豊かさが低減されてしまう

# 解決すべき課題



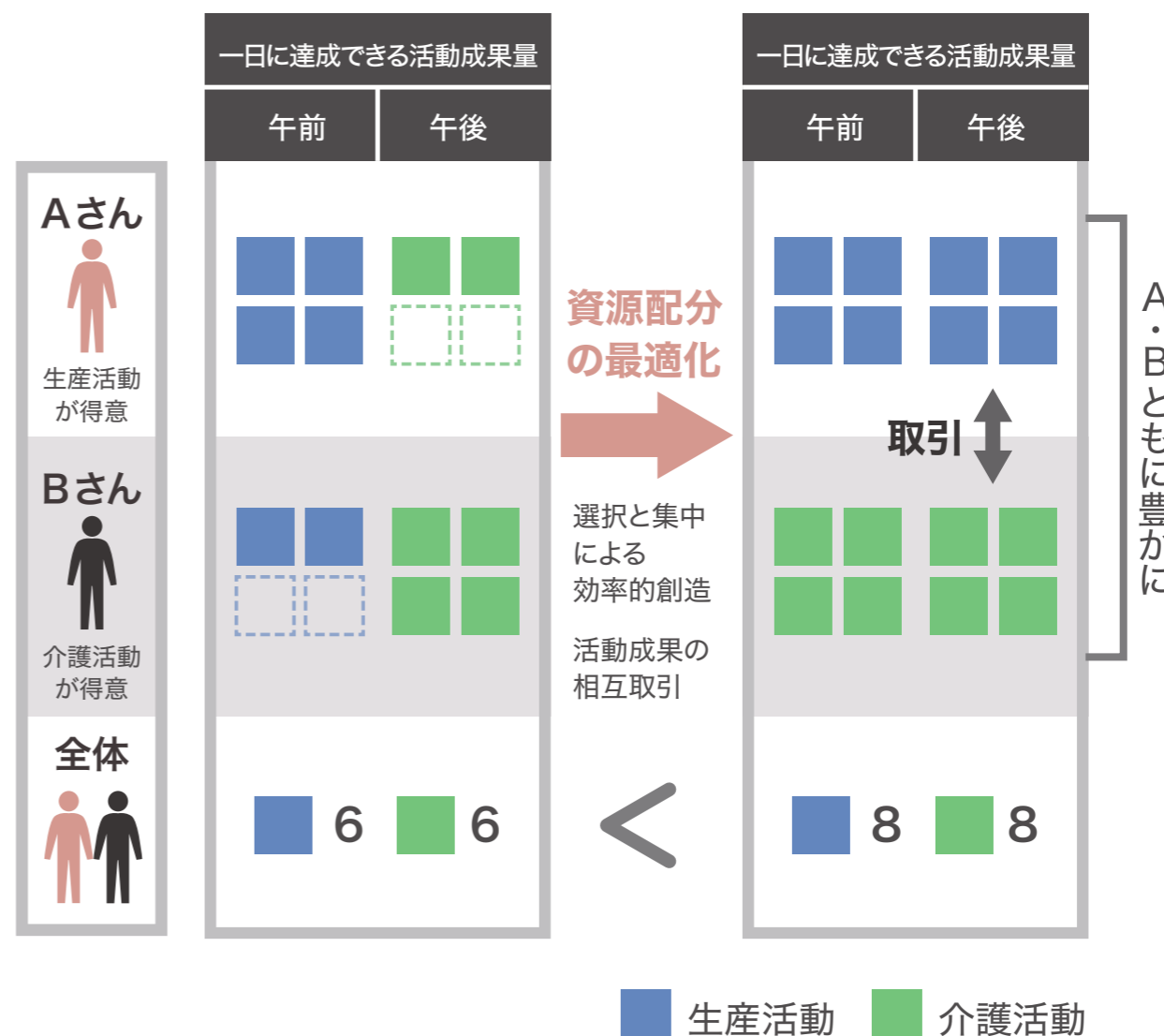
経済成長や健康長寿を心の豊かさにつなげる必要性



# 解決のコンセプト① - 資源配分の最適化

## 1+1 → 3 にする最適化のアプローチ

- 人口減少化のなかで心の豊かさを増進させていくためには、より少ないインプットでより多くのアウトプットを生み出す効率化の視点が不可欠である。
- このプロジェクトでは**経済学の最適資源配分による効率化の方法論**を応用し、より少ない資源からより多くの幸福と社会厚生を生み出す方策を提案する。



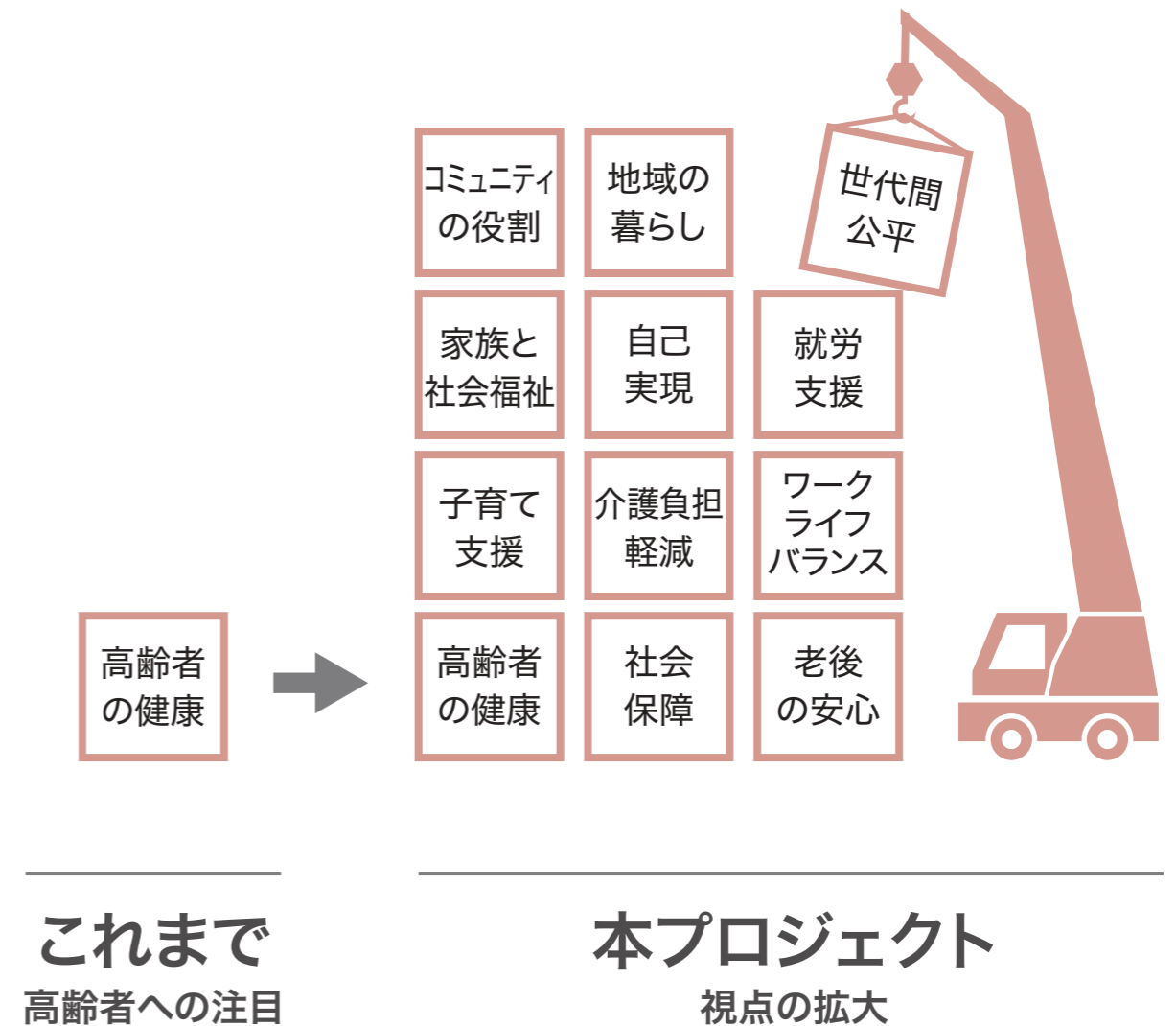
# 経済学の最適資源配分の応用による効率化



# 解決のコンセプト② - 視点の拡大

## 個人、世代、社会全体で心豊かに

- 高齢化問題は高齢者に注目が集まりがちである。
- 本プロジェクトでは高齢者の生活を大切にしつつ、それを支える若年世代・将来世代や家族、地域社会の持続性にも注目する。
- 個人、世代、社会で長寿社会の心の豊かさを偏りなく感じられるようにする。



高齢者だけでなく若年・将来世代や家族・地域社会に注目

# 解決のコンセプト③ - 長寿社会での個人のあり方

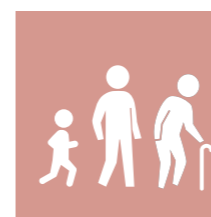
## 社会の変革と個人の変革

- 少子高齢社会の対策には、社会制度改革のみならず**個人のライフスタイルの変革**も必要。
- 少子化・高齢化が「心の豊かさ」を実現する活動に及ぼす影響の分析から、**個人が主体的に、健康、経済生活、生きがいを考え「心の豊かさを自ら創る」取り組みを行える社会**を構築するための政策を提唱する。

### 個人の変革に向けた政策提案・学習機会の提供



社会における個人の自由の保証と、個人の責任や役割の自覚



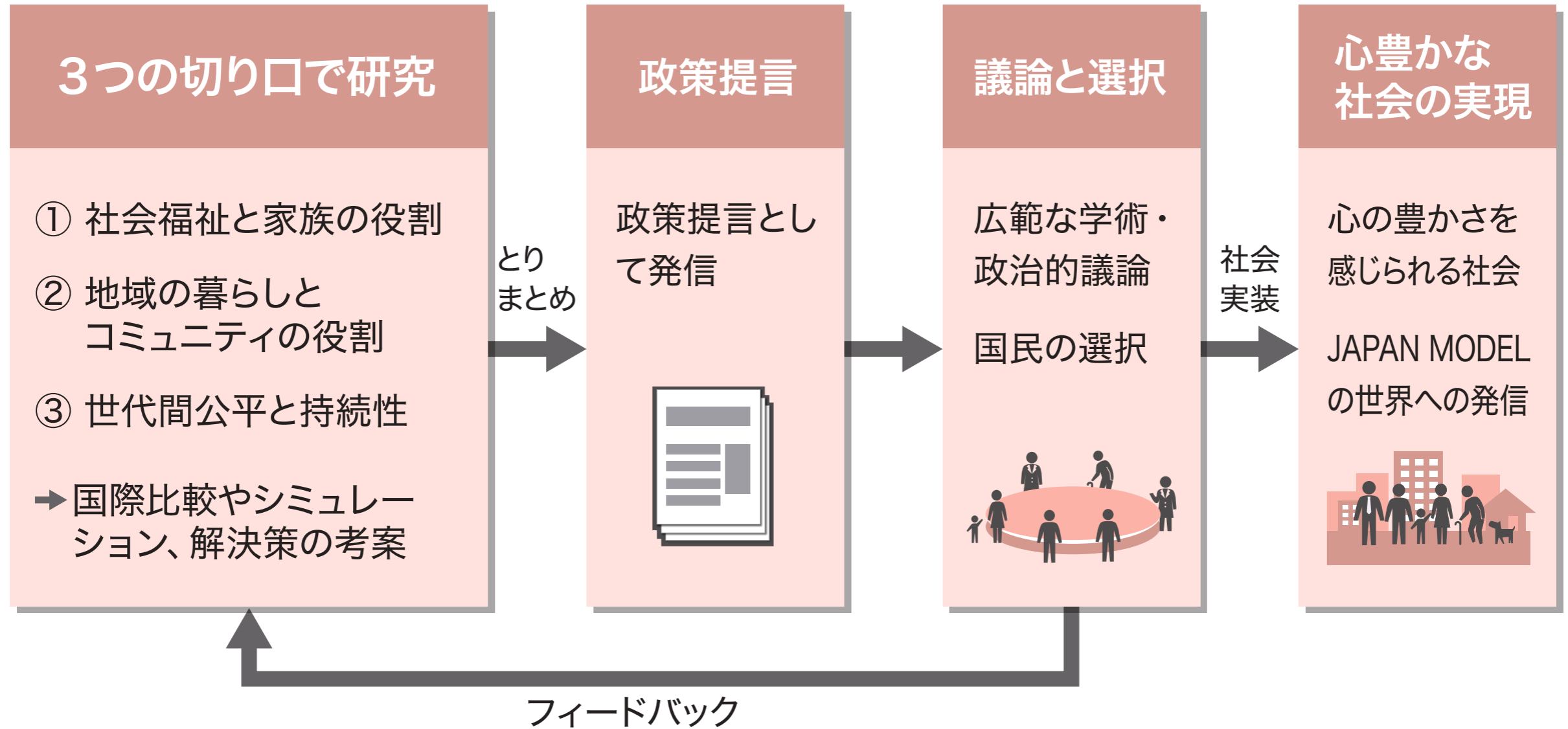
健康や経済生活において個人が生涯を見通して適切な行動がとれるような知識や技能



経済的豊かさを求める「エコノミック・アニマル」から生涯の心の豊かさを意識できる「ウェルビーイング・ヒューマン」へ

高齢者だけでなく若年・将来世代や家族・地域社会に注目

# 課題解決のフロー



3つの切り口のサイクルで心豊かな社会を構築へ

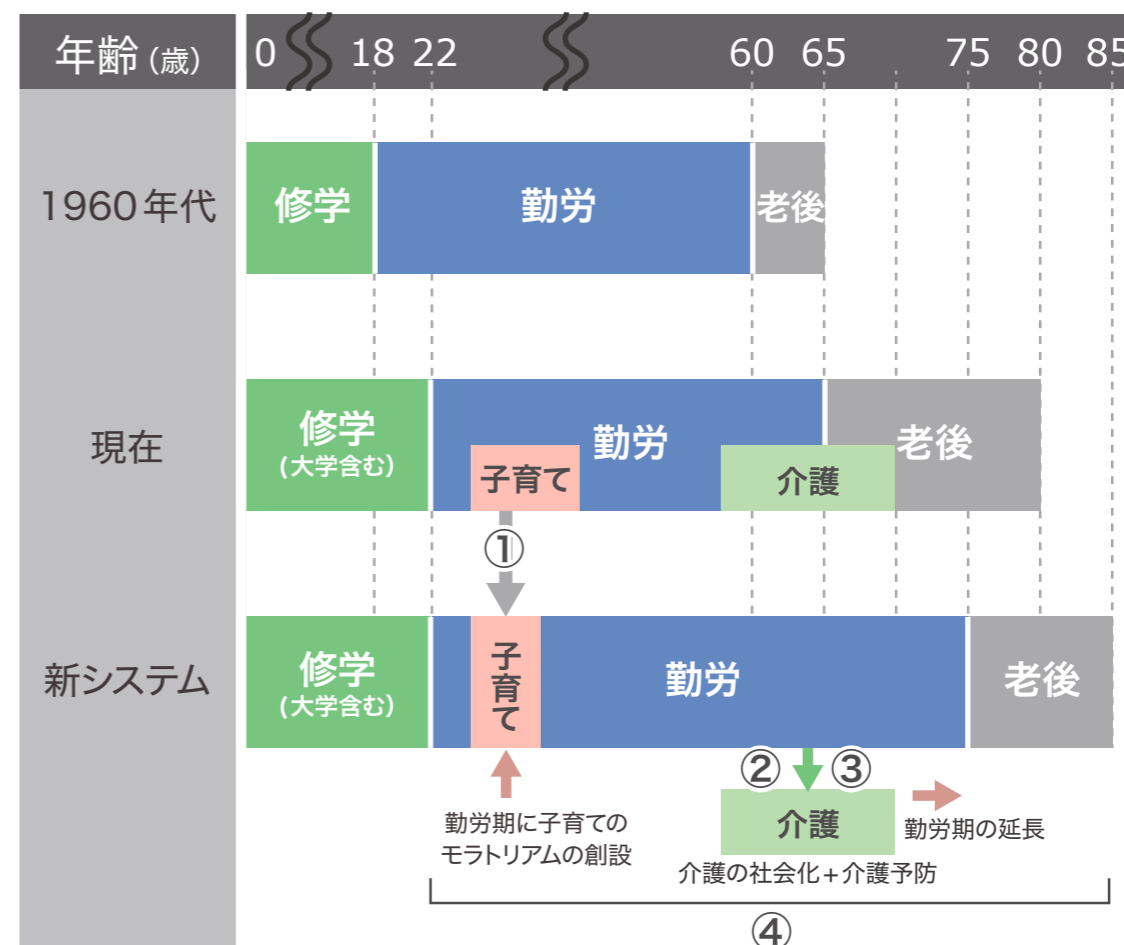


# (1) 社会福祉と家族の役割

## 公私の役割の見直しと福祉制度改革

健康で子供を産み育てる人生を選択できる社会を実現するため、医療介護サービス効率化や子育て・就業両立に向けた研究と政策提言を行う。

- ① 子育てと就業の両立が出生率および社会の幸福に与える影響に関する研究
- ② 高齢者福祉の改革による介護離職の防止および正規職、特に女性就労を高める福祉・制度のあり方の検討
- ③ 介護の形態（家族介護、公的介護等）が要介護者に与える満足度の測定
- ④ 生涯にわたる生活保障の充実のための介護予防、健康増進、雇用制度改革の提案



提案例 長寿社会に対応した働き方(①~④に関連) 一生涯時間の最適再配分の視点一

# 健康で子供を生み育てる人生を選択できる社会の構築

## (2) 地域の暮らしとコミュニティの役割

### 地域の役割の見直しと活性化

- 地域とそこに住む人々の活性化のため、一極集中社会の緩和や格差社会の解消、財政制度と社会保障改革の研究・提言を行う。

- ① 世代別の人口変化（移動）が地方財政および地域社会に与える影響に関する研究
- ② 地方での自然・社会環境における暮らしの満足度と雇用機会との関わりの研究
- ③ 上記を解決する地域を担う新しいセクターの効果に関する研究（新しい公益的地域組織）
- ④ 国内全体での最適地域間資源配分に関する研究

	公共	民間	新組織
目的	公益	私益	公益
利潤	不可	可	可
活動内容	公開	保護	公開
所有	行政	民間	地域

提案例

地域再生を担うセクターの構築 (③に関連)  
—地域サービスの効率的供給主体の視点—

地域で安心して暮らせる社会環境の実現



# (3) 世代間公平と持続性

## より効果的な高齢者福祉の選択

- より将来ほど老後生活資金が削減される、じり貧社会保障である。

※厚生年金の所得代替率 (ピンクのグラフ)

年金を受け取り始める時点の年金額の、給付時の現役世代の平均手取り収入に対する割合

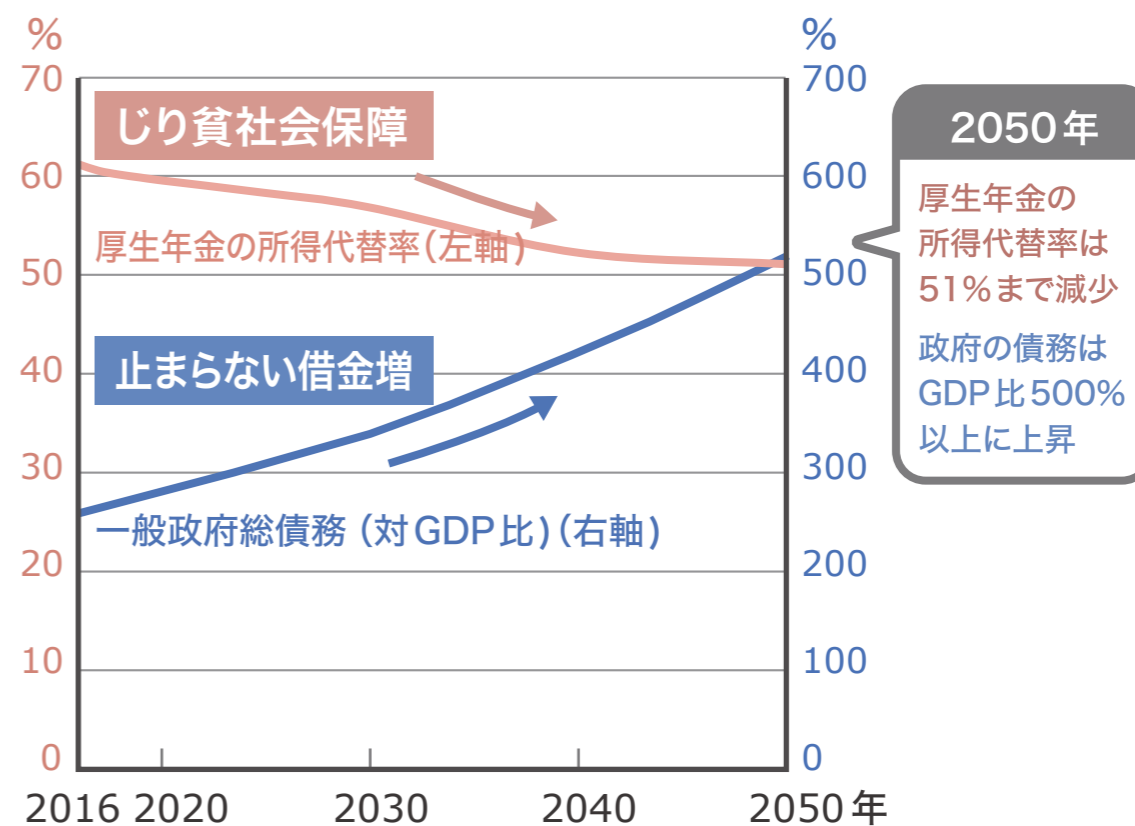
- 逆に若い世代は財政赤字や税、社会保障負担の増加が予想される。

※一般政府総債務 (青のグラフ)

一般政府の総債務 (公債や借入金等) のGDPに対する比率

- 社会保障を低資産・低所得者にターゲットを絞って組み換え、限られた財源で支援するべき人をしっかり支える効果的社会保障に改善し、世代間の公平と持続可能社会を目指す。

## 厚生年金と一般政府総債務の見通し



参照 | 厚生年金の所得代替率:

厚生労働省「国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し (詳細結果)」2014年

一般政府総債務 (消費税を10%まで引き上げた場合):

深尾光洋「日本の財政赤字の維持可能性」経済産業研究所 2012年

有限な資源をターゲットに合わせて配分することで効果的な社会保障へ

# 東北大学の強み



## 東北地域の特性

東北地方は高齢化率が一層高まる  
ことが予想されている

**実証フィールドとして重要**

東日本大震災で大きな苦難を体験し、  
幸福へ向けて再建している

**国内外にとって重要な経験**

東北大学は高齢社会の幸福を考えるため、  
東北の文化・歴史・住民に最も近いところで  
研究を行ってきた

**東北とともに歩む総合大学**

## 大学としての強み

公益的な研究機関(シンクタンク)  
としての役割

**大学だからこそできる提言を発信**

研究ネットワーク(人材・インフラ)  
の形成と知の活用の実績

加齢医学、医工学、レジリエント社会  
構築イノベーション等

**総合大学ならではのネットワーク**

## 高齢経済の研究蓄積

高齢社会における社会の持続的発展の  
分析・解決を目指し、1997年設置の福祉  
経済設計講座を母体に2015年4月1日に  
高齢経済社会研究センターを設立

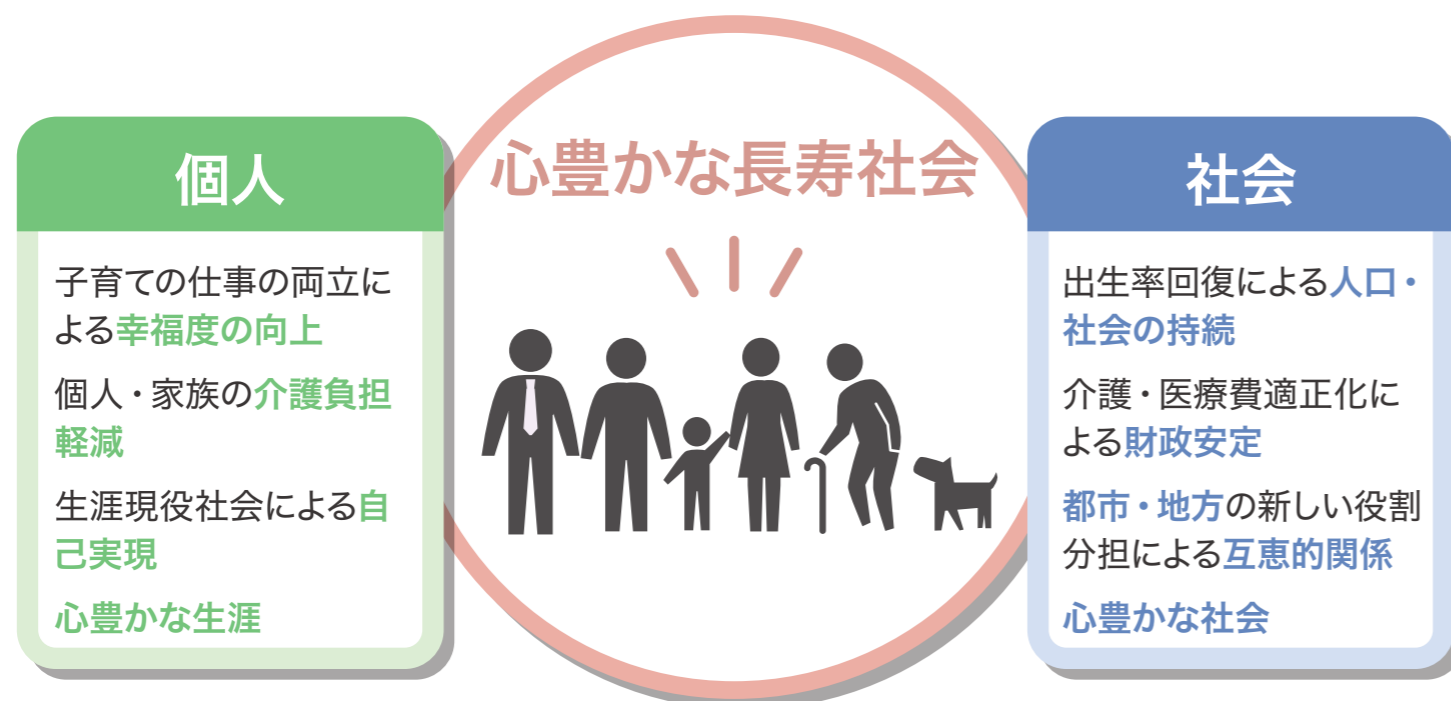
高齢経済社会及びそれに対応した  
公共政策についての経済学の視点  
からの研究を実施

**国立大唯一の医療福祉経済講座  
として研究・教育を実施**

東北大学が東北に焦点を当てて研究を行う意義がある

# プロジェクトの効果

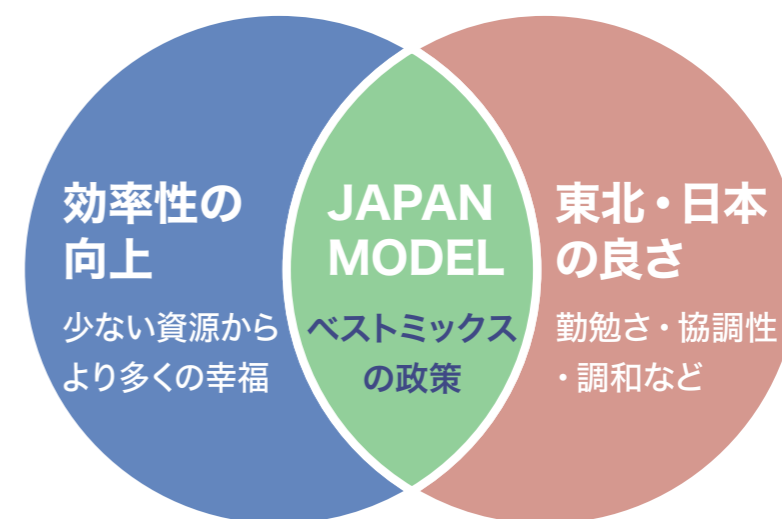
## 個人と社会の豊かさの両立と効果の拡がり



個人の日々の生活から社会全体の厚生に効果を拡大していく

個人の選択の自由の実現や将来の不安の低減を通じて個人の心の豊かさを高め、社会全体の心の豊かさにつなげていく

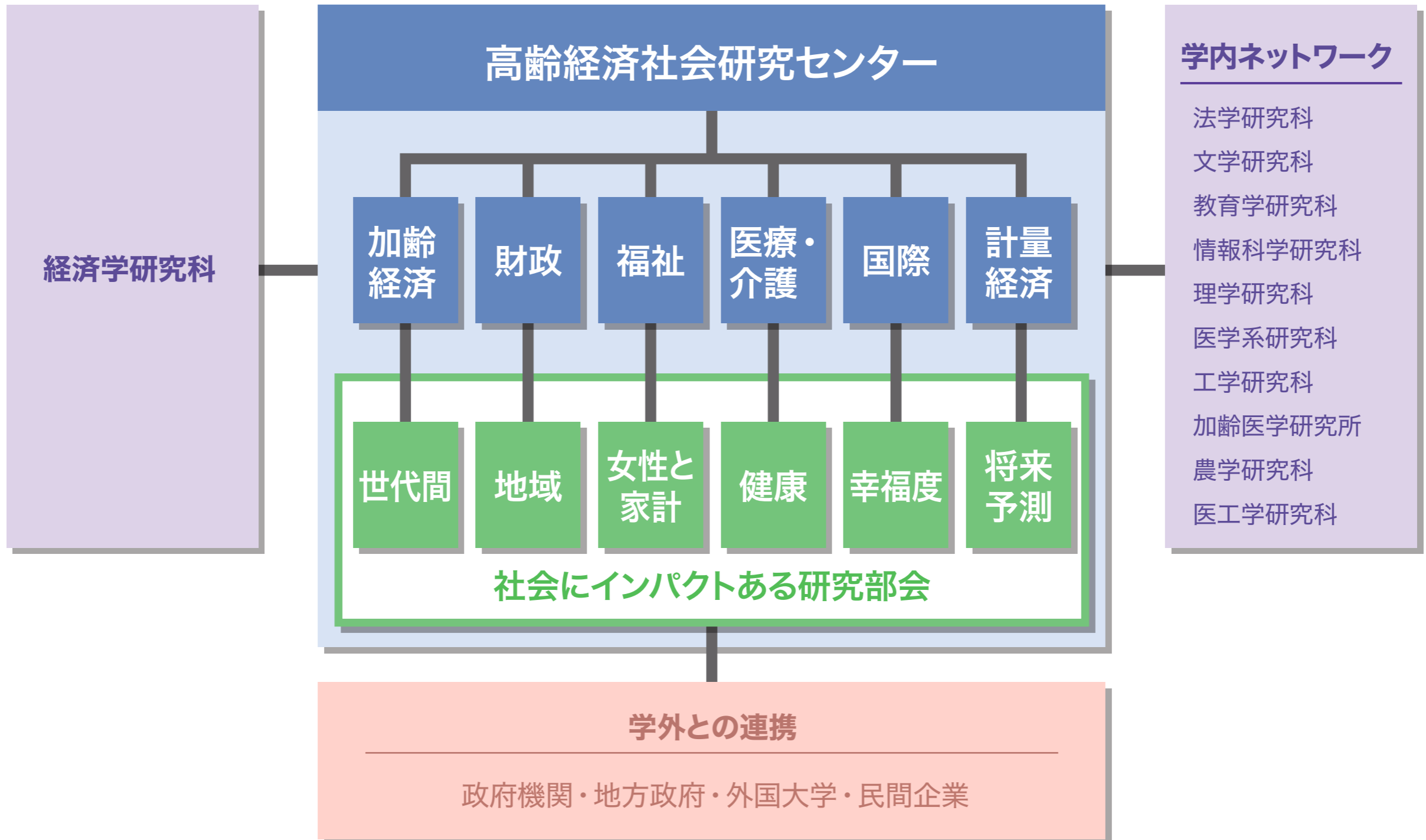
## 国際貢献



東北・日本の社会、文化、知恵と工夫が反映された心豊かな長寿社会の JAPAN MODEL を構築  
 少子化の進む東アジアをはじめとした全世界にソリューションを発信

持続可能で心豊かな長寿社会を社会全体、世界へ

# 組織体制



# 今後のマイルストーン

